

キリストの生涯、 1

デビット・L・ローパー

講座：キリストの生涯、 1

著者：デビット・L・ローパー

この講座は、Resource Publications 社の許可の下、同社発行の「現代の真実に関する注釈—(*The Life of Christ, I*)」に基づき開発されたものです。

Copyright © 2003, 2015

著作権所有。発行者からの文面による許可なくしては、この本のいかなる部分をいかなる形で複製・転載することも禁じます。

聖句は新改訳聖書から抜粋。

Copyright © 1970, 1978, 2003 新日本聖書刊行会

いのちのことば社(東京)発行。

許可を得て使用。不許複製。

大切なお知らせ

この製品は一個人の使用のみに限られています。

本講座、ThroughTheScriptures.comの受講生には、本電子書籍へのアクセスが許可されていますが、それは講座の一部として使用する場合、また講座の後に個人的に使用する場合に限られています。いかなる形であっても、このテキストのコピーを他人と共有する権利は認められていません。

このファイルには、受講生の氏名とメールアドレスがデジタルに記されています。このファイルのいかなる部分であっても他人と共有、売却、譲渡、配布した場合は、受講者アカウントが閉鎖されます。

このテキストを個人的な使用目的でコピーすることは許可されています。ユーザーエラーやコンピューター故障などの場合を考慮し、このテキストのコピーを複数の場所に保存することを勧めます。

序論

四福音書

これからイエス・キリストの生涯について、新約聖書の始めの4書に記されている内容を研究していくことにしましょう。これらの福音書には各著者の名前がつけられています。

マタイ-元取税人であり、イエスの弟子

マルコ-「使徒の働き」に登場するヨハネ・マルコ；使徒時代の若い説教師

ルカ-ローマを含め、パウロの宣教旅行に同行した医師

ヨハネ-元漁師であり、イエスに「愛された弟子」

本研究では、これら4つの福音書の調和点を指摘し、イエスの生涯についての四福音書の内容が1つの物語として繋がることを明らかにしたいと思います。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる各福音書に関するより詳細な評釈は後ほど提示します。

1つの物語に対する4つの福音書

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書は「四福音書」と呼ばれることが多いですが、実際は1つの福音に対する4つの書です。「福音書」という言葉は2世紀か3世紀の頃から新約聖書の最初の4書について言う際に使われてきました。

最初の3書は一般的に「共観福音書」と呼ばれます。「共観((英語で *synoptic*))」という言葉は、ギリシャ語の「共に」という言葉と「見る」という言葉が合わさったものです。したがって、「共観」とは「共に見る」ことを意味します。最初の3つの書が「共観

福音書」とされているのは、これらに書かれているイエスの見解が似ているからです。この3つの書は紀元70年のエルサレム崩壊前に書かれたのだろうと考えられます。

ヨハネによる福音書は、他の3書とはまた違った見解が書かれているため、「検証福音書」と呼ばれることがあります。「検証(英語で *autoptic*)」という言葉は、「目撃者によるもの」という意味として考えることもできます。ヨハネによる福音書は他の3書よりも後、紀元90年頃に書かれたものと思われる。

福音書はなぜ4つあるのか

神はなぜ、同じ時代に関する同じ物語を記した書を4つも与えられたのでしょうか。聖書では、同じ時代に関する内容がいくつかの書に記されることはあるものの(I サムエルから II 列王記までの多くの出来事は I 歴代誌と II 歴代誌でも報告されている)、同じ物語に関して4つの書があるのは珍しいと言えるでしょう。

教会の初期の時代には多くの人々が、なぜ4つの福音書があるのかについて推測しました。1つの仮説は、「4という数字は人間にとって[象徴的な]数字である」というものでした。神がなぜこの特定の数字を選ばれたのかは明らかではありませんが、神に導かれて4つの福音書が書かれたことはいくつかの事実を示唆しています。

(1) 四福音書はイエスの物語がいかに**重要**であるかを示しています。

(2) 四福音書はイエスの物語が**本物**であることを**証明**する重要性を強調しています。モーセは、「ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。」と語っています(申命記 19:15; 強調は筆者による)。4人の証人ならばさらに良いのです。

(3) 四福音書はイエスの**多面性**を明かしています。恐らく一人の筆者だけではイエスの姿を十分に表すことはできなかったでしょう。

ロンドンのナショナル・ギャラリーには、チャールズ1世の肖像画が3枚あります。そのうちの1つの

顔は右を向き、1つは左、真ん中のものは正面を向いています。

この肖像画の背景には1つの物語があるようです。ヴァン・ダイクは、この作品をローマの彫刻家であるベルニーニのために描いたと思われる。この肖像画を参考に、王の胸像を作るためにです。様々な面から受ける印象を統合することによってベルニーニは、